

# 特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘

## 平成 30 年度事業報告書

<平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日>

### ■ 昨年決議された平成 30 年度活動計画

- ①子どもの笑顔・元気プロジェクトの活動を続けます。  
笑顔バスの活動は終了しましたが、復興はまだ途中です。大人を対象としたシンポジウムボランティアの育成など、様々な取り組みを続けます。
- ②地域における実践の場として、指定管理者・業務委託者として運営を行っている児童館・児童クラブでは活動内容をより一層充実することと、外に向けて広く情報を発信する取り組みをすすめます。  
今年度もひきつづき、子ども・子育て新制度のなかで示された児童クラブ事業の対象年齢の拡大や定数の見直しなどに対応することを最優先の課題とします。  
8月に開館予定の白石市こじゅうろうキッズランドを、多くの親子に支持される安全で楽しい施設として運営する努力を行います。  
また、子ども会等への講師派遣事業をいっそうすすめます。
- ③仙台市との協議をすすめ、中央児童館の跡地の活用に向けた取組を行います。
- ④宮城県児童館連絡協議会、仙台市児童館連絡協議会、全国子ども会連合会、宮城県子ども会育成連合会、宮城県地域活動(母親クラブ)連絡協議会などの関係団体と連携を深めます。  
また、宮城ユースリーダーWINDS(ウィンズ)の活動の支援や、ジュニアリーダーの研修会への協力を引き続き行います。
- ⑤市町村の募集する児童を対象とした施設の指定管理者として応募し、地域での活動拠点の充実を図ります。
- ⑥魅力的な研修会を年間を通して実施します。  
<目的>  
児童館・児童クラブ職員には地域の児童の成長と発達を継続的に見守り、乳幼児から中高生までの発達に対して、共に活動しながら健全な育成を支援する職責があり、それらの取り組みには専門的なスキルが必要となります。  
また、子どもをとりまく社会情勢等も常に意識し情報を集めたり、子どものサインをキャッチする感性を磨き問題に取り組む姿勢と解決のための探究心を向上させていくことも必要です。知識と経験を積んだ実践力のある人材を育成するための研修を、担当業務ごと・経験年数ごとや、全体研修・外部講師をお招きする研修等様々な形で実施し、全職員の資質向上に努めます。
- ⑦助成金や補助金などを確保し、法人としての体制強化に引き続きつとめ、社会福祉法人の設立を目指します。

## ■平成 30 年度の活動実績

### ①「子どもの笑顔元気プロジェクト」

- 笑顔バスの活動は終了しましたが、下記の活動に取り組みました。

#### □子どもミュージカル

- ・南双葉地区(広野町・檜葉町・川内村・富岡町・大熊町・双葉町・葛尾村・浪江町)  
(2018年11月10.11日・17日/11月18日 本公演)
- ・宮城県山元町・亘理町 (2019年1月19.20日26日/本公演1月27日)
- ・いわき (2019年2月23.24日.3月3日/本公演3月23日)

活動の報告は以下のブログでおこないました。(http://egaobus.kodomonooka.com/)

### ②各施設での活動報告

- 仙台市岩切児童館/通町児童館/鶴巻児童館/八本松児童館/荒巻マイスクール児童館  
立町マイスクール児童館/芦の口児童館/錦ヶ丘児童館  
利府町西部児童館/利府町児童クラブ/大郷町児童館  
大和町よしおか放課後児童クラブ/大和町児童支援センター/吉岡児童館  
もみじヶ丘児童館/杜の丘児童館/白石市こじゅうろうキッズランド

## ■岩切児童館

### ●健全育成事業

子どもの参画を強く意識しながら活動を行った1年だった。事業だけではなく、子ども達にとって児童館が居場所となるように心がけ、来館する子どもたちがフラッと立ち寄れるような居場所作りを心がけた。新学期や夏休みなど、中学生が立ち寄り、時にはお茶のみをしながら、用事がなくても児童館が立ち寄れる場所になっていることを感じている。

### ●子育て支援事業

プレママ・プレパパ広場2年目参加は少し増えたが、プレママ・プレパパのニーズにはまだ合致していないと感じさらなる検討が必要と思っている。子育てネットワークでは、「わいわい広場」や「会議」など、各機関と地域課題を共有しているため課題解決へのヒントを会議の中でたくさんもらった。地域保育所との交流も日常的に行った1年だった。

### ●地域交友事業

岩切特産のまがりねぎを題材にしたダンスは、地域に広まっている。今年も地域のお祭り、に呼ばれ大好評を博した。JAに作成してもらったユニフォームでPTAフェスティバルに参加したところ、ほかの地域PTAさんから、「岩切さんは勢いがあるね」とお褒めの言葉をいただいた。また平成31年度に向けて包括支援センターさんと一緒に曲がりねぎのダンスをさらに発展させていく一歩が踏み出せた

### ●児童クラブ

サテライト・タイムシェアと各クラブの特徴を生かし、日常の積み重ねを大切にしながら個別・集団の中で子どもと関わりを持ってきた。今年度は、地域で生きる子どもたちがテーマだったので、地域活動にも参加。戸外活動、親子事業などを通して、子どもの遊びや頑張り、普段の様子を伝え、保護者とも楽しさを共有することができた。個別に対応する事例などには保護者の思いも汲み入れながら相談事業を行った。

## ■通町児童館

地域連携を深めながら仙台市の基本方針に沿って、子どもの居場所作りと子育て支援施設として充実を図った一年であった。児童健全育成 4 年生以上の子どもボランティア 31 名が核となり、子どもが企画運営する「こどものまち」をはじめ、七夕小竹飾り作りやかき氷会、手作りホッケー、スイーツ・デコ、おばけ屋敷など子どもの発想と活躍が多くみられた。少人数ながら中高生が学校帰りに寄るようになり自由来館も増えた。一年を通して栽培を手掛け楽しんだ花育・食育や、外部講師による半年間の連続ジャグリング教室など子どもが集まり活気ある児童館を感じさせた。

### ●地域交流

児童館が実行委員長を担う遊びでつながるまち作り「てらまちフェスタ」は町内会他 18 団体が結集し、延べ 500 名が参加し乳幼児から中高生や地域の高齢者が集うおまつりになっている。また、梅ジュース作りや干し柿作りは、乳幼児から小学生の自然体験、異世代交流を寺社や市民センター、地域の方々の協力により実施できた。

### ●子育て家庭支援事業

地域子育て支援拠点事業を念頭に、子どもにかかわる近隣 7 施設の児童館施設利用促進と交流、連携の土台作りができた。保育園と互いに講師依頼や行事へ協力、施設から行事への招待、物品の貸し借りや情報提供が進み、個別親子の見守りなど支援の面も膨らんだ。

### ●児童クラブ

遊具とおもちゃの見直しや遊び場所の区分け、遊戯室を中学生タイムと合わせ帰りが遅くなった 4 年生以上に 6 時まで開放など、高学年の受け入れに伴い異年齢の子どもが交流しながら、それぞれにのびのび過ごすための模索を続けた。子どもたちは学校や家庭の様々を抱え成長のひと時を児童館でいかに過ごすのか、個別の対応を通して市の家庭健康課との連携や NPO の支援サポートを活用し、心の受け止めと細やかな関わりを心掛けた。

また、保護者会活動を改善し親子交流の場を既存の行事と重ねて実施した。負担が減り親子がともにクラブの関わりの中で交流し楽しむ姿が見られた。

## ■鶴巻児童館

多くの行事を通して、地域に協力を得ながら、児童が地域と繋がる活動を多く実施することが出来ました。また、児童の社会参画、自己実現を図る事業にも多く取り組み、積極的主体的に参加する環境作りを進めることができました。

### ●児童健全育成、子どもの社会参画

結成 10 年目となる子ども劇団「わんにゃんぶう」は、在仙の詩人武田氏による脚本演出の朗読劇を、文学館とギャラリー「チグリフリ」にて公演し、また、児童クラブ児は行事でダンスを踊ったり合唱を披露したりするなど、自己肯定感を高める活動に多く取り組むことができました。また、小学 4 年生から中学生までの子どもボランティアを募集し、自主行事（子ボラとお祭り、こどものまち）の企画運営、児童館行事の補助など行い、地域のリーダー育成を目的に主体的に活動することができました。

### ●地域交流

「つるまきハロウィン」では今年も約 30 の施設、店舗、個人宅にお菓子配りの協力をいただき、探検範囲の道路に町内会の方々に安全指導で立って頂くなど行事を通して交流を図りました。また、「新春だよ!全員集合」や「あきらちゃんジャンプくんあそびうたコンサート」では、民生委員の皆さんにカレーをつくっていただいたり、児童クラブ保護者、地域ボランティアに協力を依頼したりして、地域交流、地域連携を図ることができました。

### ●子育て支援

お茶のみやおはなし会など沙龙的な内容のものと、製作やクッキング、講話を聴く行事を多数行いました。また、育児相談を多く受け付け、利用人数と比較しても多い割合で話しやすい関係性を築けてきています。また、(公財)仙台ひと・まち交流財団主催の「まるごとたかさ GO」や高砂地区社会福祉協議会助成事業の「子育てサロン」、宮城野区まちづくり推進課主催の「はっぴーママ」などの企画に積極的に出張し活動しました。

### ●放課後児童クラブ

サテライト室も2年目の運用でしたが、環境設定も整い、本館との情報共有や連動した流れも定着しました。また、個別支援や家庭的な配慮の必要な児童が多く、限られた空間で多くの児童を受け入れる難しさを感じましたが、より高い専門性が求められる現場の中、臨機応変に柔軟な対応をしていた職員を大いに評価したいです。

## ■八本松児童館

仙台市の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針に沿いながら、『地域でつながる・あそびでつながる児童館』を目指して、様々な活動に取り組んだ1年であった。

### ●健全育成事業

地域における居場所となれるような環境づくりを目指し、様々な活動を実施。どんどこプロジェクトの助成金を活用し『八本松プレイパーク』を実施。子どもたちの遊びを大人が再認識する中で、子どもたちのデジタルゲームではない人と人が実体験を通して関わり合える遊びをプレイワーカーと共に実施。中高生への支援としてバスケットゴールの活用を通して、児童クラブの先輩が小学生に対して教えてくれる姿が自然にあり、異年齢児の関りが多く見られた。

### ●子育て支援事業

幼児クラブでは『親と子のつながりの場』を意識し、同じ年齢の子どもの活動を通して仲間づくりもできた。午前の行事を通して乳幼児親子がホッとできる場所を提供できる活動を実施。乳幼児親子の居場所づくりや横のつながりづくりを積極的に行った。

### ●地域交流事業

市民センターと保育園との3館共催コンサートも4年目となり、様々な年齢を対象とした施設が連携している活動が地域でも定着しつつある。秋には、向山高校茶道部の協力を得てお茶会で地域の方々に抹茶を楽しんでもらった。「子どもの声で賑やかな児童館が、いつもと違っていいね」と町内会長さんから褒めの言葉を頂くことができた。

子育て支援クラブはちと、毎年恒例となっている餅つき会を地域の方々と白杵で行うなど地域とのつながりを図ることができた。

### ●放課後児童クラブ

年々登録児童が増加しているが、日々子どもが主体的に活動できるよう子どもの声に耳を傾け、子どもたちが“居なければいけない場所”ではなく、“居たい場所”になれるよう子どもを真ん中に置いた活動ができるよう工夫した。聴覚支援学校の児童を受け入れており、障がいに対する理解を遊びを通しておこなうことができた。

## ■荒巻マイスクール児童館

今年度も「のんびり ゆったり みんなが集まる児童館」の下に、地域団体・施設との連携による各事業の充実に努めました

### ●児童健全育成事業

主に小学生を対象に児童館ならではの“遊びと育ち”を意識し、新しい体験やさまざまな地域の年長者との出会いに配慮した展開に努めました。また、支援すべき課題のある児童の把握から、行事を通じた児童支援にも取り組みました。

### ●子育て家庭支援事業

安全で安心な居場所の提供を基本に、親自身がいきいきと子育てに取り組むきっかけとして、児童館単独の事業のほか、子育てボランティアサークルとともに、主に幼児親子との顔の見える関係づくりに努めました。また、昨年に引き続き、近隣の児童館・保育所と共催で幼児親子対象の出行事を行いました。

### ●放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

本館とサテライトそれぞれで落ち着いて過ごせる環境づくりに努めるとともに、「異年齢児童の交わり」「夢中になれる活動」「初めてのことへの挑戦」「ひとりひとりの活躍」を大切に、館外の団体や個人の協力も得ながら取り組みました。また、保護者には「毎日が活動参観日」の心づもりで接し、連絡会後には児童クラブで盛んな遊びを親子で楽しみ、児童クラブでの過ごし方を伝える機会としました。あわせて安心してお子さんを託せるように、事業の中で反省すべき点はその都度話し合い、保護者に伝え改善してきました。

### ●地域交流推進事業

子どもたちが、“荒巻のこども”としてのびのび育つことを大切に考え、小学校のPTAや学校支援地域本部、地域団体の活動に積極的に参加し、地域で子どもたちを見守る仲づくりに努めるとともに、近隣の児童館、保育所、市民センター等との連携を進めました。

## ■立町マイスクール児童館

仙台市の掲げる4つの柱に沿いながら「誰もが主役！みんなおいでよ児童館」という館独自の目標を掲げ、地域の皆さんに気軽に利用したり立ち寄ってもらえる児童館を目指し活動を続けた一年だった。

### ●児童健全育成事業

校舎の中にある児童館という特色を生かして、クラスでの活動が困難な児童の受け入れを行った。また、学校・幼稚園・保育所・児童発達支援センター・相談支援事業所等の近隣施設とこまめに連絡・情報交換ができる関係作りに努め、地域の子どもたちの育ちを見守ることに力を注いだ。そして、遠距離から公共交通機関を乗り継いで通学する児童の安全確保のために、特例対応の受け入れを継続している。

### ●子育て家庭支援事業

乳幼児クラブの登録が多く地域の需要を感じた。年齢ごとのクラブ活動を通じて、母親同士どんどん成長していく子どもたちの姿を見守りながら、交流も広がっていった。母親たちの自主企画活動にも参加者が増えている。民生委員主催、保健師・保育士協力による子育てサロンも浸透してきている。家庭健康課の育児相談にも出かけ、親子遊び等々行いながら児童館を知ってもらうための活動も行ってきた。

### ●地域交流推進事業

地域の様々な団体と協力をしながら、地域事業に積極的に参加し、子どもたちが地域の方と出会いふれあうきっかけ作りに努めた。メディアテークでの活動を通してアーティストさんたちと交流をし、子どもたちに様々な出会いを提供することができた。大学生の研究についてもできる限りの協力を続けた。

### ●放課後児童健全育成事業

サテライト開設に伴い、高学年児童が思いやアイデアを出し合いながらサテライトでの生活をつくりあげられるように気を配った。サテライト児童企画・準備・運営の行事をたくさん実施し、子どもボランティアの意識も高まっている。低学年児童が高学年児童にあこがれをもって関わる姿がみられ、自然に学年を超えた縦割り活動ができている。

## ■芦の口児童館

### ●地域とのつながり…

開館から7年、地域の子ども達を見守る場所として定着している。地域の方々に構成されている子育て支援クラブ「あしっこ」は、地域の民生委員、子育てを終えた会員や乳幼児の子育て真最中の若い会員まで年齢層が幅広い。また昨年度から男性会員2名を加え、和気あいあいと活動している。恒例行事であるあしっこの共催事業『流しそうめん』は竹伐りから始まり、あしっこの男性メンバーや児童クラブの父親が活躍。節抜き作業では、あしっこに加え児童クラブの保護者とこどもスタッフが力をあわせた。

また、児童館庭の植栽を不定期に行って下さり、緑化活動にも貢献している。また、当館を拠点に毎月1回練習を行っている親子サークル和太鼓「天地芦鼓連」とすずめ踊り「おだづもっこ」に依頼し、「和太鼓ワークショップ」「すずめ踊りワークショップ」を開催。地域の親子が楽しんで参加した。

### ●子育て家庭支援

育児相談『ことりる～む』は、専門知識のある方の相談室という事で、お母さんたちに乳幼児の心の発育に必要なことは十分に愛された実感とあそびこむ事だと、家庭で子育てをし孤軍奮闘しているお母さんたちを励ましてきた。また、児童館の利用をきっかけに子育ての仲間ができるようにと始めた月に1回の「ほっとサロン」は地域の若いお母さん達に好評で毎回楽しみに参加して下さる方も多い。

### ●こどもの育ちの場として

児童クラブを利用する子どもに加え、自由来館の子どもたちの利用も多、一輪車が乗れると楽しみにして児童館にあそびに来る。野球やサッカーなど限られたスペースで時間を決めながら、子ども達同士工夫して遊ぶ姿、異年齢で遊ぶ姿から児童館・児童クラブは子どもたちにとって「育ちあい」の場であると感じた。また、一人になる空間の補償が難しい児童館。事務室の相談室をトラブル時のクールダウン、宿題、おやつ場所に。

またゴロゴロしたい時やゆっくり静かにシルバニアなどをして過ごす場所とエネルギーチャージをする時間を設け、創作活動室を活用した。集団で育ちあう良さを活かしつつ、ひとりひとりに丁寧に向き合うことを心がけ『人にやさしくみんなが笑顔』になれる児童館運営を続けていきたい。

## ■錦ヶ丘児童館

地域の中での錦ヶ丘児童館の役割を見定めながら事業を展開した。様々な出会いを意識しながら4つの柱を中心にした運営を行った。

### ●放課後児童クラブの運営

多人数の子どもをお預かりするため、引き続き安全性には気を配り、特にサテライトの環境整備には配慮した。また、落ち着ける静かな空間作りや遊びができるように工夫を重ねた。職員間で意見を出し合い、子ども達が夢中になれるプログラムを日日用意し、どの子どもも輝ける場所を確保できるように努めた。

### ●放課後健全育成

小中高大学生がボランティア活動で大活躍する「児童館まつり」では国際交流を含め様々な世代の人たちと出会える場を提供することができた。更に、劇団「つきのえ」、ダンスクラブなどの発表も経験でき、子どもたちの成長に繋がった。引き続き広瀬中学校とは定期的に美術部の子どもたちと触れ合う機会を設け交流を深めた。

### ●子育て支援事業

月二回の登録制幼児クラブを中心に、その他、定例行事として読み聞かせや季節に応じた活動を用意することができた。更に、保護者支援として子育ての悩みを抱えた方たちのサークル「陽だまりの会」の活動を支援した。そして子育て支援クラブ「にしきらりん☆」の活動をサポートし、月に一回の様々な行事は保護者に大変好評だった。

### ●地域との連携

6月に行ったサイカチ沼ハイキングでは、社会福祉協議会の方と地域のボランティアの方に引率をして頂き、異世代交流ができた。「錦ヶ丘夏まつり」では子ども達のダンスを披露したり、地域の方から盆踊りを教わったり幅広い年齢層の方と和やかな交流をもつことができた。常日頃から地域の施設と繋がりがもてるよう積極的に足を運んだ。

## ■利府西部児童館

平成23年4月に開館した利府町の唯一の児童館です。また、利府町の方針として「まちは一の学校」ということで、高校から小学校までブラザーシップを実施して、街ぐるみで子どもたちを見守ろうとしています。その中で誰もが気軽に寄っていただける児童館を目指して頑張った1年です。

### ●児童健全育成

前年度まで毎日遊びに来ていた子ども達が中学生になり、中学生の利用が増えました。そのため、中学生が小学生の面倒を見ながら遊ぶ姿が多くみられました。また、利府町唯一の児童館ということで、土曜日には学区外の小学生も遊びに来てくれました。

### ●地域交流

地域の方々に講師を依頼し、本格的な凧作りや門松作り、ハーバリウム等の様々な行事を行いました。8月には地域の夏祭りのお手伝いとして夜祭を盛り上げ、児童館をPRしました。

### ●子育て支援

幼児向けの工作行事やおはなし会、リトミックや英語のわらべ歌の行事など充実していました。登録制の幼児クラブ「とことこクラス」は町外から引越されてきた方のクラスなので利府を知ってもらうための活動をしたり、情報交換や友達作りの場として居心地の良い環境を作りました。

## ●放課後児童クラブ

児童館と菅谷台小学校のミーティングルームを借りてサテライト児童クラブとして2ヶ所で活動しました。子ども達同士の交流を図れるように長期休みや学校が早く終わる時は校庭や体育館に遊びに行ったり、児童館で大きな行事がある時は合同で過ごしました。

子ども達にはたくさんの経験をしてもらいたいと思い、年間を通して様々な行事を行いました。夏には児童館事業のキャンプにも参加し貴重な経験をすることができました。

## ■利府町児童クラブ

平成30年度、3期目(3年)の業務委託の2年目で引き続き利府町内6ヵ所の児童クラブの運営をさせていただいております。昨年度より児童クラブ対象学年が6年生までとなり、平成30年度は6年生の登録児童数も増え、全体的にも約530名と年々増加しております。

児童クラブの運営がより良いものになるように、各児童クラブの状況を話し合ったり、利府町児童クラブ・事務局からの連絡事項を伝えたりと、1ヵ月に1回必ず全体ミーティングを行うようにしていった。

小学校との連携については、子どもの情報交換会や学校行事(授業参観・学習発表会等)に参加させていただき、学校での様子を見ることもでき、連携を密に取ることができていました。

しかし、昨年度の課題にも挙げていた地域での連携が取れているところとなかなか取れていないところに関しましては、連携は取れているもののなかなか密度が濃いものにならないものになってしまったので、引き続き次年度の課題にしていきたいと思っております。

児童クラブの行事は、夏の流しそうめん・かき氷大会、秋のハロウィーンは子どもたちにも地域の方々にもだいふ定着してきて、楽しく過ごす姿が見られておりました。夏の行事はスタッフ間でも準備や役割分担、当日の流れがスムーズに進められるようになり、秋のハロウィーンは近くの保育園や老人ホーム、小学校や公民館などを訪問させていただき、交流をさせていただきました。

利府町児童クラブは対象学年が全学年となり、登録児童も増加しております。保護者からのご意見やご要望も多々あり、その都度、迅速かつ丁寧に対応してまいりました。ご意見やご要望は本部や役場に報告・相談していきながら、来年度も児童クラブ単体ではなく、利府町児童クラブ・事務局も踏まえ、全体で対応していきたいと思っております。

## ■大郷町児童館

大郷町からの業務委託を受け開館から2年が経過。「屋内型公園」のイメージでの運営を望まれている。小学生の自由来館は登録でランドセル登録になっており登録数は155名。開館日数292日利用来館者数は前年度比2割増しの7,489名。

来館者数も土地柄もあり「地域が児童館」的な役割から「児童館が地域」づくりを担ってきているのを感じているが、あくまで「子どもたちは地域で育てる」方向に進めるような活動を意識している。

教育委員会を通じての「無形文化財羽生田植え踊り」の継承の場としての利用は、町内フェスティバル参加以降、色々な意味で注目を受け、地域限定で継承されていたものが地域を越えて依頼に応じるまでになっている。児童が立ち上げたすずめ踊りは、指導者協の協力を得たことで、途絶えていた太鼓の会がお囃子で再結成し、舞台披露を2回行えた等、小さなことを地域が大きな渦に変えてくれている様を見せて貰っている。

同様に、児童クラブで行っているハロウィンパレードとサンキュークリスマスパレードは地域の関心を得て、協力体制も大きくなってきている。児童クラブは、全員が迎えるため、スタッフが保護者と直接に報告と連絡・相談ができることで関係性は非常に良い状態だ。この関係性は、スタッフの努力と意識の高さで維持ができていけるもので当児童館の特徴であり、誇るべきところである。この維持のためにも日々の打ち合わせの内容の充実と研修会・講習会への参加も積極的に行った。スタッフの学びも十分に期待に応えるものだった。

自由来館者と児童クラブで、可能な限り一緒に過ごす時間を取っているのは、タテとナナメの関係をつくり、より健全育成の概念を実現するためである。

年度末には、長く望んできた幼稚園・保育所との引き継ぎ会が実現と、小学校の全児童と、児童館のある中村地区全戸にお便りの配布が叶った。令和元年度は、小学校との定期的な情報交換会が行える予定である。さらに地域との連携を、広く確実なものにしていけるものと期待している。

## ■大和町よしおか放課後児童クラブ

大和町より業務委託を受けて、5年目の春が始まりました。定員80名の当児童クラブは、今年度3,4年生に14名の待機児童がでるほど、利用希望者が年々増加しています。

30年度のよしおか放課後児童クラブは、引き続き個別支援が必要な児童への対応に力を入れました。ミーティングや申し送りにおいて、子どもたちの状況を全スタッフが把握できるようにしました。丁寧な対応や様々な工夫が、児童クラブ全体にとっても良い結果になっていることが実感できています。

その中でも、きっちりしすぎない「タイムスケジュール」は、遊びの時間をより多く確保することができました。自分で選ぶ宿題の時間は、自己決定による自覚が芽生えたように感じています。登館後すぐに宿題をする、遊んでから宿題をする、半分やって残りは後で…など、自分で決めることにより進んで宿題をするようになりました。

また、遊びにおいては、集団で遊ぶ姿がより多く見られるようになりました。特に「ケイドロ」の人气が高く、学年を交えて大勢で走り回る姿は、子どもたちの運動面の能力があがったのではないかと感じています。

今年度は、利用児童の半数が1年生という日々が続いています。1年生と上学年のタイムスケジュールや遊びのスペースを、スタッフ主導で少しずつらしながら、お互いの遊びの確保と安全の確保を行っているところです。

### ●小学校との連携

30年度は、個別支援の必要な児童について学校との連携を目指しました。2年生は、授業を受けることが難しい子どもが多くいる学年でした。学校での不満やイライラを持ち帰ることなどが多くありましたが、じっくりと話を聞くことにより児童クラブでは比較的落ち着いて過ごすことができました。学校からも心配な子どもたちの状況を知りたいと連絡がくることもあり、双方で子どもを見守る路線ができつつあるように感じています。

## ■大和町児童支援センター

児童支援センターを運営していく上で、「地域の子育て情報発信拠点の児童支援施設事業」をテーマに行い、大和町地域の子育て支援に視点を持ちながらも地域づくり、まちづくりを意識した従来の事業運営にシフトできた一年でした。

子どもたちの身の回りには、新鮮な感動、親子で発見してほしいものがたくさんあり「自分の手による驚きと感動に満ち溢れた発見」「さまざまな魅力に満ちた遊びの発見」「遊びのなかでの友だちの発見」にポイントを置き、様々な発見によって心身に蓄えられていくものを大切に創造的な活動を常に利用者の側に立ち、事業を企画してきました。また、子育てで一番悩む時期のお母さんに寄り添える事業を実施するなどの取り組みを通し、乳幼児親子の「子育て・子育て、地域の遊び場」としての認知度が高まり、「和やかな雰囲気・アットホームな空間」が評判を呼び、常連の親子、イベントだけでなく居場所として利用する意識も広まり、いつでも育児相談のできる環境を整え、子育て家庭支援のサービスが向上しました。

大和町地域の子育てネットワークの活動の幅を広げ、様々な団体同士が顔の見える関係をより一層強く築くことができました。

また、子育てネットワーク情報や児童館だより、各団体の事業などのお知らせを積極的に行い、利用者が児童支援センターに来るといろいろな情報を得ることができると評価を受けました。

当法人の児童館や町直営の児童館との壁を取り払い「同じ大和町の子どもたち、親子への支援を行う者同士」ゆるやかに手をつなぎ交流や勉強会を行う研修の場を昨年度に引き続き展開してきました。

これまで同様、子どもから大人までもがあそびの持つ力を活かし、心の解放や体験できる環境・3つの間「時間・空間・仲間」をモットーに子育て情報ステーションとして地域に開かれた「のんびり・ゆったりできる」施設として誰もが気軽に立ち寄ることのできる環境作りを心がけ、日々思い切り遊べるよう心掛け、初心を忘れず活動をしていきたいと思えます。



## ■吉岡児童館

地域に開かれた、子どもの安全・安心できる居場所や遊びの提供、子どもが育つ地域社会との連携と環境づくりをもとに児童健全育成事業に取り組み、乳幼児親子のあそび場の提供と子育て支援、児童たちの放課後の居場所作りを日々来館者ひとりひとりに丁寧に向き合う事を大切にあそびの環境を提供してきました。

### ●事業の展開

児童館事業を行う上で「体験活動・地域とのつながり・継続」にポイントを置き、これまで以上に地域住民とより顔の見えるコミュニティーづくりネットワークづくりを念頭に活動してきました。

昨年に引き続き吉岡地区や同施設内の他団体と連携を取り、地域に開かれた児童館活動を1回のみならず、継続的アプローチをすることによりプログラムの発展・展開をすることができました。

●放課後児童クラブ保護者との連携する活動では、登録している児童たちだけの活動だけでなく、保護者それぞれが意識を持ち長期休業にあたり説明会や児童館の親子行事を開催し、大人同士も楽しめることにより児童を取り巻く環境づくりの活動してきました。

●乳幼児親子向け活動や小学生向けの活動において、あそびの提供・仲間づくりの支援を丁寧に言い、活動を展開してきました。

これまで同様、子どもから大人までもがあそびの持つ力を活かし、心の解放や体験できる環境・3つの間「時間・空間・仲間」をモットーに子育て情報ステーションとして日々思い切り遊べるよう心掛け、初心を忘れず活動をしていきたいと思えます。

## ■もみじが丘児童館

平成29年度から大和町もみじヶ丘児童館の運営を開始し、昨年度で2年目となりました。利用者の大きなケガもなく運営することができました。

### ●地域連携

学校の行事（運動会、発表会等）への参加も積極的に行えた。また、夏休みなどの長期休業日などは学校の先生が児童館に子どものたちの様子などを見に来て下さり、児童館スタッフと学校の先生方との交流も増えた。また行事等を通して「ハロウィン仮装パレード」では、昨年度を上回る32カ所の地域の商店や区長さんのご自宅・関連施設などにも訪問できた。

### ●児童健全育成事業

平成30年度より、土曜特別行事を実施。月に一回クッキングや、火起こし体験など児童館スタッフのスキルを活かした事業を行った。児童館内での活動だけではなく、市営バスに乗って、富谷市のベルサンピアでのスケート教室なども行い。児童クラブではない子どもたちも児童館を利用してもらえるようになってきた。

しかし、児童館の開館時間が17時までなので中高生の利用率は少ない。今後は中高生も利用してもらえるようにしていきたい。

### ●乳幼児事業

乳幼児親子の利用率は昨年度より下回った。3年保育が主流となりつつある中で、児童館を利用する乳幼児親子も減少している。また、行事を行っても保育所・幼稚園などの兄弟間の行事が重なり行事の参加率、幼児クラブの申し込み状況も年々減少している。

今後は近隣の保育所や幼稚園などと行事が被らないようにしていきたい。

### ●放課後児童クラブ

昨年同様、児童クラブ申込み者数が定員数より増え、登録保留児童が数名出ている。子どもの数が減少している地域ではないため、定員数を拡大しなければ今後2～3年はこの状況が続いていく。

## ■杜の丘児童館

新しく宅地開発された住宅地にできた児童館で、開館2年目。大和町役場杜の丘出張所・南部コミュニティセンターと同じ建屋内に併設されており、同じ小野小学校区にはもみじヶ丘児童館もあります。役場出張所、もみじヶ丘児童館と連携をとりながら、地域の方に、子どもたちに、まずは知ってもらい、そして皆に慕われる児童館づくりを目指しています。

### ●児童健全育成

自由来館は、幼児が日平均10名弱、小学生は月平均300人・日平均15名弱と日常的に多く、気軽に利用できる環境が出来てきているように思います。子どもたちには家や学校など複数居場所がありますが、その一つに児童館が存在し得るよう、楽しく遊び、遊ぶことから健全育成を図っています。

### ●地域交流

2年目ということもあり徐々にではありますが、行事への地域団体の参加、保育園などとの連携、住民からの本などの物品の寄贈等々、「地域の児童館」になってきていると感じます。今後も無理してつくる地域交流、しなければならない地域交流ではなく、児童館に愛着が生まれて自然と出来上がっていく地域交流が根付いていくものと思っています。

### ●子育て支援

利用者は日々多く、友達づくりの場、情報交換の場、子育ての悩み相談の場となっています。行事は、登録制幼児クラブの「にこにこクラブ」、アクティブな「もり杜パーク」、ゆったりお茶でもの「ふらっと」の3つを定期開催しています。

### ●放課後児童クラブ

登録は110名、利用者は日平均80名弱となっています。子どもたちは毎日学校から急いで帰ってきて、大きな声でたがいまー……。このことから、子どもたちにとって児童館が大好きな居場所となっていると感じています。今後も職員皆で意識を高め、より良い環境を作っていきたいと思えます。

## ■白石市こじゅうろうキッズランド

昨年8月21日にオープンを迎え、3月までの間に延べ5万人もの方にご来場いただきました。ゴールデンウィークは、10連休という過去最長の連休となりこの間の来場者数は6844人と非常に多くの方に利用をしていただく事が出来ました。

宮城県内に初めて出来た屋内遊園施設として、大変な注目を集め連日県内外からの視察が続いております。3月には自民党から岸田政調会長様も視察に見え、施設の役割をご理解いただき、お褒めに与りました。

さらには、同敷地内に4月25日にオープンしたおもしろいし市場や、今年度末オープン予定の地元食材を活用したレストランの運営団体の皆様と力を合わせ、多世代賑わい交流拠点として、多くの方にご利用頂けるよう思案していきたく思います。

現在の集客状況としましては、土日祝日ともなると、定員を超える程の方に来ていただく事もあり、整理券を配布し、2～3時間でのご利用を目安に入れ替えをするという事も度々ありました。近隣市町村のお客様には半年有効のパスポートや、回数券の利用を勧めることで、リピーターとして週に何度も足を運んで頂けるようになりました。

また、イベントも充実した内容となり、あきらちゃん&ジャンプくんのあそびうたコンサートを初め、絵本作家さんによるライブペインティング、大道芸人さんのショー等好評を頂くものとなりました。平日にはキッズランドのスタッフによるイベント（おはなし会や子育て相談カフェ等）も始まり、集客に繋がる定着したイベントになるよう活動を継続していきたく思います。

遠足の受け入れも好調となっており、県内からの申し込みは勿論、県外からも申し込みを頂いております。平成30年度は約40件の受け入れを実施しました。今年度はさらに増える予想となり、5月の遠足シーズンには15件の予約が入っているところです。

このように、遠足を初め沢山の様々な地域から人の集まる場所として、児童館とは違う形の児童健全育成に貢献していきたく思います。

### ③宮城県中央児童館跡地活用

●具体的な進展はありませんでした。遊園部分は仙台市の管轄になっていますが、本館の敷地は売却されており、現在住宅地の造成が進んでいます。

#### ④関係団体との連携・ジュニア・リーダーやボランティアの育成

- 理事長の平山乾悦、吉岡児童館の永浜館長、錦ヶ丘児童館の濱田は、平成30年8月に宮城県子ども会育成連合会が国立花山青少年自然の家において開催したサマーキャンプの企画・指導を勤め、ジュニア・リーダー、シニア・リーダーの指導も含めて協力しました。副理事長の新田新一郎は、公益社団法人全国子ども会連合会の理事を勤め、全国各地の子ども会からの依頼を受け、保護者向けやシニア・リーダー、ジュニア・リーダーを対象とした講演会やワークショップに携わりましたし、全国地域活動連絡協議会の全国大会が仙台を会場に開催され、基調講演をつとめました。宮城県地域活動(母親クラブ)連絡協議会の事務局は引き続き当法人の本部内にあることも含めかつて宮城県中央児童館ゆかりの3団体それぞれと連携を深めることができました。一昨年発足した宮城ユースリーダーWINDS(ウィンズ)は、まだ具体的な活動にはいたっていません。引き続きボランティアの育成に取り組みます。利府町「こどものまち」においては、沢山のボランティアに参加・協力いただき、実践活動の場とすることができました。

※宮城県児童館連絡協議会は、宮城県から県子連・県地連と同様に自主的な運営を求められていますが、現時点では大きな変更はありません。

今後の在り方を検討する「法人化委員会」に理事長の平山が委員として参加し、より一層充実した活動を進めるため新たな理事会体制とする提言を行いました。

#### ⑤市町村の指定管理者の公募

- 「こじゅうろうキッズランド」の業務委託を受け、運営を始めました。8月21日にオープンしてから3月までの間に延べ5万人もの方にご来場いただきました。農産物等販売施設「こじゅうろうのさと」や2020年完成予定の地元食材活用レストラン、6次産業化加工施設等の農商工振興施設と一体の「農商工連携を核とした賑わい交流拠点・白石SUN(サン)パーク」に位置します。関係団体と協力しながらより多くの皆様に利用頂ける施設となるようつとめます。

#### ⑥魅力的な研修会の実施 報告

- NPOみやぎ・せんだい子どもの丘主催の自主研修会  
今年度は内部研修会を40日間44項目について実施し延べ899名の職員が参加しました。東京都八王子市立中野児童館の井垣館長をはじめとする専門的知見を有する外部講師をお招きした研修に加え、宮城県が主催する放課後児童支援員認定資格研修の講師をつとめている館長が講師をつとめる研修も実施しました。乳幼児担当者研修会においては、新任と中堅に分かれ、新任は基礎的な視点から、中堅は技術的な視点から同じメンバーで学ぶことで、現場でのおはなし会や幼児クラブなどの乳幼児への対応に役立てられています。要支援サポート研修会においても、現場での悩んでいることを先生に相談し、具体的なアドバイスをもらうなど、様々な児童が利用する児童館・児童クラブにおいて発達特性をより理解し、丁寧な対応をするきっかけを貰うことができました。様々な研修テーマを設けたことで、参加したスタッフからは「今まで研修会に出られなかったが、今年は多く参加できた」「同じような経験年数のスタッフと横のつながりができてよかった」など、実施回数が多かったが、参加したスタッフからは評価を得ることができた研修会を実施することができました。

# 平成 30 年度 特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘内部研修報告

回数	研修会名	実施期日・場所	内 容	参加人数
1	館長・主任研修	30.4.24 (火) 本部スタジオ	緊急時対応 (安全管理) ・防災対策・火災対策・地震対策・緊急対策 他	23 名
2	男性職員研修	30.5.8 (火) 本部スタジオ	①セクシャルハラスメントについて ②男性だからできる子育て支援	26 名
3	総会全体研修	30.5.29 (日) 本部スタジオ	みやぎ・せんだい子どもの丘 法人理解	60 名
4	新任・中堅研修	30.6.5 (火) 本部スタジオ	①危険予知『子どもをケガや事故から守るために』 ②保護者対応『気持ちの良い対応の仕方』	32 名
5	新任者研修会	30.6.22 (火) 本部スタジオ	みやぎ・せんだい子どもの丘の職員としての心構え	14 名
6	遊びのスキル研修	30.7.17 (火) 大和町南部コミセン	学童期の遊びの重要性 実践！みんなで遊びを広げよう。	29 名
7	遊びのスキル研修	30.9.18 (火) 本部スタジオ	あそびって何だろう？アレンジして楽しもう	15 名
8	主任研修	30.10.16 (火) 本部スタジオ	①NPO が求める主任の責務について ②グループワーク	15 名
9	中堅研修	30.11.13 (火) 本部スタジオ	子ども理解とアソビゴコロ／リスク＆メリットを 考える	19 名
10	新任者研修	30.11.27 (火) 本部スタジオ	①乳幼児期に求められる児童館の役割 ②児童との接し方および法令順守	28 名
11	中堅者研修	31.1.15 (火) 本部スタジオ	①中堅職員だからできること、求められていること ②児童健全育成を進めるための地域連携	24 名
12	館長・主任研修	31.2.12 (火) 本部スタジオ	地域連携 ～地域とつながり、より良い健全育成のために～	21 名
13	新任者研修	31.2.14 (木) もみじヶ丘児童館	運動あそびの役割／遊びの実技	17 名
14	スタッフ研修	31.2.19 (火) 本部スタジオ	みやぎ・せんだい子どもの丘の理念・基本方針	27 名
15	初級 乳幼児担当者研修 (会場は大和町南部コミセン)	30.5.29 (火)	おはなし会って？児童文化財って？	14 名
16		30.6.26 (火)	おはなし会って？児童文化財って？	15 名
17		30.9.25 (火)	おはなし会って？児童文化財って？	11 名
18		30.10.30 (火)	【実践】 みんなでおはなし会をつくってみよう！	12 名
19		30.11.20 (火)	【実践】 みんなでおはなし会をつくってみよう！	17 名
20		31.1.29 (火)	【実践】 みんなでおはなし会をつくってみよう！	15 名
21		31.2.26 (火)	【ふりかえり】 1年間学んだこと、想いを、皆でシェアし来年の児童館等の活動につなげましょう！	15 名

平成 30 年度 特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘内部研修報告

回数	研修会名	実施期日・場所	内 容	参加人数
22	中堅 乳幼児担当者研修	6月19日(火)本部 スタジオ	パネルシアターの基本を学ぶ	16名
23		7月3日(火)本部 スタジオ	パネルシアターの製作・実演	18名
24		8月28日(火)杜の 丘児童館	【実技】パネルシアターを演じてみよう	17名
25		9月11日(火)本部 スタジオ	ペープサートの基本を学ぶ	16名
26		10月16日(火)本 部スタジオ	ペープサートの製作・実演	15名
27		11月6日(火)錦ヶ 丘児童館	【実技】ペープサートを演じてみよう	16名
28		12月4日(火)本部 スタジオ	いよいよ実践 さあ、みんなでおはなし会を作ろう	17名
29		2月5日(火)本部 スタジオ	いよいよ実践 さあ、みんなでおはなし会を作ろう	14名
30		3月5日(火)八本 松児童館	【実技】おはなし会をしよう	16名
31		仙台 要支援児サポ ート養成講座	30.5.16(火)本部ス タジオ	第1回児童館サポート養成講座
32	30.9.4(火)本部ス タジオ		情報交換会	14名
33	30.10.2(火)本部ス タジオ		第2回児童館サポート養成講座	16名
34	31.3.12(火)本部ス タジオ		第3回児童館サポート養成講座	16名
35	仙北 要支援児サポ ート研修会	31.4.20(金)利府町 西部児童館	入門編 発達障害ってなに?違いはなに?	46名
36		30.5.25(金)利府町 西部児童館	いまさら聞けない発達障害 種別と特性	53名
37		30.6.29(金)利府町 西部児童館	褒め方と叱り方	39名
38		30.9.7(金)利府町西 部児童館	事例検討会	46名
39		31.2.8(金)利府町西 部児童館	まとめ	45名
40	おもしろいし ま なばナイト	30.10.20(土) こじゅうろうキッズ ランド	子どもの幸せと絵本	14名

## ⑦イベント報告

●みやぎ子どもの文化創造祭「人形の森」は、会場を確保できず開催できませんでした。

### ●第7回こどものまち in りふ

□開催日時： 平成30年11月11日(日) 9:00～16:30

□会場： 利府町役場

□参加者： 参加者(子ども196名+ボランティア112名)+

観光客(保護者・見学者など)400名 合計708名

多くの方々のご協力で当日はたくさんの方々にお越し頂き大盛況に終わることができました。

「こどものまちinりふ」は、ちまたに多くあるマニュアルに則った職業体験ではなく、子どもたち自らが考えて行動しながら、働くことを通して、自分たちのまちを作り上げていけるよう企画してまいりました。

今年は初めて参加する子どもたちも多く、当初は不安もありましたが、みなさまのサポートのおかげで、生き生きと働き、働いたお金で買い物やゲームをしたり、カフェでのんびりしたりと、楽しそうな子どもたちの笑顔を見ることができました。これからも子どもたちが中心で自発的な活動ができる事業を企画してまいります。

# 決 算 報 告 書

(第 15 期)

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘

# 貸借対照表

平成31年 3月31日 現在

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘

(単位： 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>	35,055,230	<b>【流動負債】</b>	36,389,095
現金及び預金	26,204,920	未払金	30,147,078
立替金	105,500	未払法人税等	172,000
前払費用	430,630	預り金	4,750,017
未収入金	8,314,180	1年以内返済長期借入金	1,320,000
<b>【固定資産】</b>	3,886,072	<b>【固定負債】</b>	2,090,000
<b>【有形固定資産】</b>	3,716,592	長期借入金	2,090,000
建物	3,716,592	負債の部合計	38,479,095
<b>【投資その他の資産】</b>	169,480	純 資 産 の 部	
敷金	169,480	<b>【株主資本】</b>	462,207
		利益剰余金	462,207
		その他利益剰余金	462,207
		繰越利益剰余金	462,207
		純資産の部合計	462,207
資産の部合計	38,941,302	負債及び純資産合計	38,941,302



# 損 益 計 算 書

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月31日

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘

(単位： 円)

科 目	金 額	
<b>【売上高】</b>		
会 費 収 入	422,000	
事 業 収 入	572,497,644	
事 業 外 収 入	6,288,377	
売 上 高 合 計		579,208,021
売 上 総 利 益 金 額		579,208,021
<b>【販売費及び一般管理費】</b>		
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 合 計		580,657,608
営 業 損 失 金 額		1,449,587
<b>【営業外収益】</b>		
受 取 利 息	858	
雑 収 入	1,738,631	
営 業 外 収 益 合 計		1,739,489
<b>【営業外費用】</b>		
支 払 利 息	101,149	
営 業 外 費 用 合 計		101,149
経 常 利 益 金 額		188,753
税 引 前 当 期 純 利 益 金 額		188,753
法 人 税 等		172,000
当 期 純 利 益 金 額		16,753

## 販売費及び一般管理費内訳書

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月31日

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘

(単位： 円)

科 目	金 額
役 員 報 酬	11,330,000
役 員 賞 与	2,090,000
給 料 手 当	390,214,049
雑 給	206,550
賞 与	54,577,914
法 定 福 利 費	54,922,918
福 利 厚 生 費	3,072,395
研 修 費	15,577,705
広 告 宣 伝 費	715,904
接 待 交 際 費	30,935
旅 費 交 通 費	1,491,943
通 信 費	4,139,050
印 刷 費	3,682,706
消 耗 品 費	13,344,929
修 繕 費	824,329
水 道 光 熱 費	7,406,365
新 聞 図 書 費	444,394
諸 会 費	145,008
支 払 手 数 料	520,560
車 両 費	2,160
地 代 家 賃	5,658,480
リ ー ス 料	2,264,270
保 険 料	1,813,330
租 税 公 課	528,928
保 守 管 理 費	4,039,578
雑 費	1,613,208
販売費及び一般管理費合計	580,657,608

# 株主資本等変動計算書

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月31日

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘

(単位： 円)

## 【株主資本】

資 本 金	当期首残高		0
	当期末残高		0
利 益 剰 余 金			
そ の 他 利 益 剰 余 金			
繰 越 利 益 剰 余 金	当期首残高		445,454
	当期変動額	当期純利益金額	16,753
	当期末残高		462,207
利 益 剰 余 金 合 計	当期首残高		445,454
	当期変動額		16,753
	当期末残高		462,207
株 主 資 本 合 計	当期首残高		445,454
	当期変動額		16,753
	当期末残高		462,207
純 資 産 の 部 合 計	当期首残高		445,454
	当期変動額		16,753
	当期末残高		462,207

# 注 記 表

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘

## 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

固定資産の減価償却の方法

引当金の計上基準

収益及び費用の計上基準

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

その他の注記

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 消費税等の会計管理

消費税等の会計処理は税込方式を採用しております。

III. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 9,723,408 円

以 上

以上のとおり報告します。

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘

監査の結果、いずれも適法かつ正確であることを認めます。